

令和8年第3回  
西条市教育委員会 2月臨時会会議録

西条市教育委員会

令和8年第3回西条市教育委員会 2月臨時会会議録

1 開会及び閉会 2月10日(火) 午後4時30分  
閉会 同 日 午後5時30分

2 出席及び欠席

出席者	教育長	青野信樹
	教育長職務代理者	福田亜弓
	委員	礪 恒子
	委員	鳳 慶洲
	委員	一色一成

3 会議に出席した者

事務局長	串部佳隆
教育指導監	吉岡健二
副局長兼社会教育課長	佐竹浩
学校教育課長	村上彰彦
学校教育課指導主幹	莖田篤史
学校政策課長	渡部誉
学校政策課指導主幹	内田賢一郎
教育総務課長	白石元
教育総務課主幹兼係長	曾我部みを
教育総務係長	田口剛洋

4 会議録署名委員

1 番委員	福田 亜弓
2 番委員	礪 恒子

5 協 議 ・第3回総合教育会議の開催に向けて

6 傍 聴 者 なし

7 議事の概要

教育長 ・ただ今から、令和8年第3回教育委員会2月臨時会を開催する。

教育長 ・本日の会議録署名委員に福田委員と礪委員を指名する。  
・日程第3 協議に入る。  
・「第3回総合教育会議の開催に向けて」協議する。

学校政策課長 ・(1) 西条市の学校規模等適正化について説明

- 教育長 ・ ご意見等ございませんか。
- 鳳委員 ・ 基本方針案は現在どのような状況にあるのか。
- 学校政策課長 ・ 資料1の4番(1)から(6)の内容で今準備を進めている。
- 鳳委員 ・ まだ完成には至っていないということか。
- 学校政策課長 ・ 基本方針案自体は概ね整っているが、その提出時期やタイミング、具体的な内容は教育委員会の了承を得てから進めたいと考えている。
- 教育長 ・ 他に何かご意見はないですか。
- 鳳委員 ・ 基本方針案の公表はいつ頃を予定しているか。
- 学校政策課長 ・ 基本方針案の公表の予定について、令和8年3月中を目標としている。ただし教育委員との協議や了承のタイミングによっては、4月以降になる可能性もある。
- 一色委員 ・ 答申書に記載されている内容に基づく基本計画案について、修正すべき点は決まっているか。
- 学校政策課長 ・ 答申書で示された内容をもとに計画案を作成する予定である。
- 一色委員 ・ しかし、答申書を基準とした場合、現時点で遅れが生じており、その結果スケジュールにもズレが出ると思われる。
- 学校政策課長 ・ 「答申書の内容通りに進めるのか」という質問には、その通りである。教育委員の了承を得た後にパブリックコメントや公表などの流れで進める予定であるが、その具体的な時期については答申書には明記されていない。
- 事務局長 ・ 答申書には速やかに基本計画案を策定するように求められており、「地域の意見も踏まえる」という付帯決議がある。具体的な時期は示されていないが、年度末までにはパブリックコメントを行うスケジュールが設定されている。
- 一色委員 ・ このスケジュールで進めること自体には無理がないという理

解でよいか。

事務局長

・一度地域で方針説明を行ったため遅れたと考えている。先ほど学校政策課長も述べたように、方針と計画を2つに分けて策定することで数カ月間スケジュールのズレが生じることになる。その結果として、市民にも納得いただいた上で作成した計画が答申書の計画となる。出し方についてはロードマップや地域協議会設置なども記載していく予定である。また、「どのようにして進めていくのか」や「地元から意見を聞いてくれるか」といった不安感についても方針内で追加して記載する。パブリックコメント段階では計画にも十分協議して進める旨を書き込むことになると思う。計画案自体は大きく変わらないと思うが、不安感解消につながる表現を追加する方向で考えている。

教育長

・その他ご意見はございませんか。

「西条市小中学校の適正規模および適正配置等に関する基本方針」の策定について賛成される方の挙手を求める。

(挙手全員)

・挙手全員で議決されました。

次に教職員の働き方改革について説明をお願いします。

(学校教育課長説明)

・ただ今の説明について質問等ございませんか。

一色委員

・残業時間についてですが、自分自身が困ってしまうため残業として申告せず在校してしまうケースも考えられる。この対策や対応について検討されているか。

学校教育課長

・文部科学省からは本人による申告ではなく外形的な把握が求められている。そのため教職員の日常使用システム「ミライム」を活用し、パソコンの電源のON/OFFによって残業時間管理を試みたいと考えている。また休息时间や先生の都合による残業時間なども考慮しつつ業務時間・労働時間として把握する予定である。この方法では本人からの申告ではなくシステム利用による把握となる。また部活動や校外活動には本人から事前申請により、その時間も含めた形でルールづくりを業務改善部会とともにいながら適正な時間把握へ努めたい。

- 一色委員 ・この調査結果によって教育委員会としてどこまでフォローできるのか。授業資料作成など教職員が必ず行わなければならない仕事でも、それだけでも決まった時間以上になってしまう場合がある。その際仕事量削減できず早く帰れと言われても逆効果になり精神的負担につながる。この状況下では学校環境が厳しくなる懸念があるが、この点についてどのように考えているか。
- 学校教育課長 ・委員のおっしゃる通りである。本当にこの計画を真剣に推進すると教職員への負担増加につながる。そのため ICT 活用や来年度2名増員予定のスクールサポートスタッフ増員など教職員以外のスタッフ採用によって教職員の業務軽減へ取り組んでいきたいと思う。学校現場との相談もしっかり行いたい。
- 教育指導監 ・学校及び教職員の業務の3分類について実際に多くできていない人がいる。それには財政的・人的な対応が必要であるが、一方予算が限られている中では非常に苦しい状況である。またテレワーク普及等家庭内リモートワークが増加すれば、それ自体業務時間扱いとなる。私個人として教師自身が楽しく働ける環境整備こそ重要だと感じる。それなしでは本質的な質向上は難しく教職員の幸せにもつながらないと思う。この4月より校長先生始め全教職員へ周知する際、目標設定も重要だと思う。しかし一色委員がおっしゃった通り過度の束縛の懸念もあり、本当の意義を踏まえてどう対応すべきなのか皆さんと共々考えていきたい。
- 一色委員 ・私は常に後手に回っていると感じている。例えば、今後の大きな課題としてコミュニティ・スクール問題が挙げられる。コミュニティ・スクールに助けを求めるという選択肢もあるが、実際には会を開催するための時間や曜日について、平日や休日など、地域ごとにさまざま問題が存在している。こうした事柄については、あらかじめ教育委員会が先手を打ち、フォーマットを整える準備や支援を行うことが重要だと思う。また、今後出てくる部活動に関しても地域へのお願い事がある。その中で、お迎えの方法やここからどこへ連れて行くのかといったルール作りも必要だと思う。まず教育委員会がフォーマットを作成し、そのフォーマットを基に基本計画のようなものを策定する。その後、各学校にはこのフォーマットを提供し、それに応じて各校が自らの状況に合わせて変更していくという流れになる。これによって、私たちは将来的な問題に取り組む一方で、目の前の課題に集中してもらおうという分業体制が築かれる。こ

のような方法によって、学校側に全ての負担をかけることなく、新たな仕事もできる仕組みが整うのではないかと私は感じている。

磯委員

・昨日の出来事についてお話しする。実は、夜9時頃まで学校での会合があった。この高校入試前の時期で、3年生の教員はそれぞれ仕事をされていた。どうしてもやらなければならないことなので、残って残業をしていた。その間に何度か電話がかかってきた。最初に保護者には時間外は電話を取れない旨の連絡はしているが、教員としては「何かあったのではないかと心配になり、電話を取らざるを得ない。電話を取ることで仕事が増えてしまうこともある。3年生の入試前で絶対にやらなければならないことがある。それについては言い出せない部分もあるが、電話を取らなくてもいいようにすることで負担が軽減されると思う。

事務局長

・これは5年間の計画ということで、その中で、どのように負担を軽減していくのが重要である。時間的な制約はもちろんだが、その際に感じる負担感も大きな要素となる。したがって、現場がどこに負担を感じているのか、またそのためにどれだけ時間を費やしているのかをまず調査する必要がある。例えば、電話対応に関しては、留守番電話機能を導入することが考えられる。また、部活動は、やりたい先生もいればあまり積極的ではない先生もいる。もし後者の意見が多ければ、その部分から手をつけていくことになると思う。一度にすべてを解決することは難しいため、まず教育委員会が動向改善に取り組むことで、一番先生に喜んでもらえるというところから取り組んでいく。そして、それに基づいて5年間の年次計画を策定していく必要がある。私自身、その計画を立てるべきと考えている。来年はその準備期間ともなる。おそらく県から報告するよう指示されると思うので、愛媛県として集計し、「愛媛県は教員の時間外勤務が非常に多い」と報告することになると、逆に先生を目指す人が愛媛県の試験を受験しなくなる可能性がある。この点について国も考慮していると思う。他地域を見ると教員の残業時間がほとんどないところもあるので、それらの取り組みについても学びながら進めていかなければならない。これまでは現場任せだった部分もあったが、今後は主体的に取り組む必要がある。磯委員がおっしゃったように、「つつい先生たちは電話を取ってしまう」、教育委員会が「電話を取らなくてもいいです」と明確に伝える必要がある。そのくらい強調しないと効果的な改善には至らないと思う。

- 礮委員 ・健康を壊すことはある。そうなると、ずっと休むことができる先生もいれば、自分の仕事を休むわけにはいかないと感じる先生もいる。真面目な先生たちは、他の先生に迷惑をかけたくないという思いから、体調が悪くても休めない。少々の熱では休むことができない。自分の仕事を他の先生に任せることで、さらに負担をかけてしまう可能性がある状態は今でも続いていると思う。
- 事務局長 ・5年間の計画期間を設け、その中でどの程度まで問題を軽減できるかを進めていきたいと考えている。完全にゼロになるとは思っていない。すべての問題が解決するわけではない。しかし、5年後にはその反省を踏まえて、新たな5年計画を立てる。そして、職場環境を改善するために努力していければと思う。
- 学校教育課長 ・電話の話題が出たので、4ページの(2)、一番下にも記入させていただいているが、こちらは現場から非常に強い要望を受けている。一度に導入する方向で試みたこともあるが、一度に全てを実施するとなると、経費がかなりかかるため、今後は計画を立て、既定予算を活用するなどして留守番機能や録音機能を追加していきたいと考えている。また、一部の機種については設定変更によって留守番電話機能を数万円で実現することも確認したため、早速来年度から取り組んでいきたい。
- 一色委員 ・西条市教育委員会の公式ラインは設置しないのか。自動返信のシステムとして、基本的に特定の状況に応じた対応が可能になる。例えば、ある学校で緊急の事態が発生した際には、その時間外でも担当者が決まっている場合がある。その担当者が自動返信を確認し、適切に振り分けることで迅速な対応が可能となる。教育現場では、このようなシステムを導入しておけば、各学校での運用もスムーズに行える。最近では、多くの方がLINEやスマートフォンを使用しているので、文章ベースで記録を残すことも容易となる。このような取り組みは、今日からでも実施できる。
- 学校教育課長 ・有効な情報をいただいたので、今後勉強していきたい。
- 教育指導監 ・新規採用の教職員数については、今年も減少している。しかし、他県では辞退者が多い現状がある。採用試験で何とかしなければ、人材がいなくなるという問題がある。来年度も人員確保は重要な課題である。さらに、少子化に伴い、今後多くの教

職員を雇うことが難しくなる可能性がある。雇ったとしても、その教職員を支える環境が整わず、多くの先生方が次々と辞めてしまうことにもつながりかねない。この点についても懸念されている。特に大きな問題は、講師の先生方が不足していることである。「待機組」と呼ばれる講師たちが存在しないため、育児休暇や産休中の先生方の代わりを務める人材が見つからない状況である。なんとかスタート時点には至ったものの、今後病気で休まれる先生やイレギュラーな対応を要する場合に備えた人材が足りていないため、現場は非常に厳しい状況となっている。

福田委員

・現在、大規模校の教員は多く在籍しており、さまざまな業務を皆さん連携しながら進めることが可能である。しかし、小規模校の教員は人数が少なく、その中で一人ひとりが抱える業務量は非常に多いという現実がある。私自身、先生方からその声を伺っている。特に若い教員たちは、右も左も分からない状況の中、一生懸命に授業計画を立てたり、授業準備を行ったりしている。そのため、どうしても時間をオーバーしてしまい、夜遅くまで熱心に子どもたちのために努力されていると思う。しかし、そのような状況では、教員が少ないために次第に帰宅する人が増え、最終的には若い先生だけが残ることになる。このような状況になると、危機管理の観点からも考慮すべき点が多くあると感じている。一人だけになってしまうことについては、多くの不安や疑問がある。教育委員会として何かルール作りができればと思う。また、パソコン上でデータを扱う際にも注意が必要である。過去にも問題となった事例があるので、自分一人でデータを管理することにはリスクがある。そのため、このような管理体制やルール作りが求められると思う。

教育指導監

一色委員から提案されたフォーマット作成について、業務計画が具体化する際には補足的なフォーマットがあった方が理解しやすいと考える。若手教員への配慮としても、そのような工夫を施すことで注意喚起につながる。ただし、それを規則として厳格化すると逆効果になる恐れもあるため、そのバランスについて慎重に考える必要がある。

一色委員

・私は若い先生たちにとって、生成 AI の活用が非常に助けになると思う。その理由の一つは、積極的に生成 AI を使うことを推奨する姿勢にある。実際、今日のクラスでは、業務の時間が驚くほど短縮され、スライドも本当に美しく仕上げるができる。現在の技術は素晴らしいので、恐れずに触れて学ぶべ

きだと思う。「これを使ってみよう」と前向きな気持ちで取り組むことで、有効なプロンプトや使い方を身につけることができる。教育委員会としても、このプロンプトをした場合には特定の情報を入力することで利用しても良いという許可を与えることが重要だと思う。「これなら使ってもいいんだ」と感じる先生たちも増え、業務がどんどん効率化されていく。家庭に持ち帰ってわざわざ表計算ソフトで作業する必要もなくなるかもしれない。このような方向性で進めていくべきだと考えている。私は積極的に新しい技術を取り入れることが大切だと思った。

鳳委員                   ・教育委員として総合教育会議でどのようなことを話すべきか。

教育長                   ・今回の総合教育会議では報告として、こういう計画ができましたという報告となる。

事務局長               ・先生方が一番困っている点や負荷がかかっている部分について、調査や分析を行うことが重要と考えている。教育委員会としては、こうした課題に対する取り組みを進める必要がある。多くの人々も「そこは大事ですね」と共感してくれる。そのためには、まず認識を深めてもらうことから始まるのではないかと思う。最終的には、市長が予算編成権を持っているため、私たちの提案に対して理解を得ることが不可欠で、「ここに重点的に取り組みたい」という意向を伝えることで、少しでも協力を得られるよう努める。すべての要望が実現できるわけではないが、その点を踏まえて予算についても考慮していただきたい。また、全体的な取り組みで学校支援につながる施策があれば、それもぜひ検討していただきたいと思う。このような観点から進めていくことが重要だと感じている。

福田委員               ・当日は、私たちが抱えている課題について、市長にお聞きいただき、その後、市長からどのようなお答えをいただけるのか、という点が重要だと思う。お願いというよりは、まずは課題をしっかりとお伝えする形で進めていければと思う。

教育指導監           ・本市の予算について、今後これが増えることはないと考えている。また、人的な採用も増やすことが難しい状況である。これは今後の予算編成に影響を与えるため、学校現場でもその点を訴え続けるのではなく、現実的にできる範囲で工夫していく必要がある。私たちも現在何とか確保している予算を活用しつ

つ、学校側にも無理をさせないように配慮している。その必要性については引き続き訴えていくつもりだが、実際には予算が減少する一方なので、それぞれが創意工夫しなければならないという現実がある。

福田委員

・さまざまな局面において、特に難しい状況の中で、どのように工夫を凝らすことができるかが重要だと考えている。工夫できる部分については、一生懸命取り組んでいただきたいと思っているが、その工夫が苦痛にならない形で行えることが理想である。つまり本当にやりがいを感じながら、その工夫を身につけることができると思う。最近、教育長室でお話しする機会があった。その際、先生同士の学び合いや子供たちの学び合いを推進してという話題にも触れた。このような学び合いは非常に重要であるが、業務改善においても同様に、先生たちがお互いに学び合うことは欠かせない。教育委員会による各種支援ももちろん重要であるが、その中で専門的な知識を持つ先生方には、「どうすれば改善できるか」を考えていただきたいと願っている。

教育長

・その他この計画に対してのご意見等ございませんか。

「西条市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について、承認される方の挙手を求める。

(挙手全員)

・挙手全員ということで計画とさせていただきます。

それでは、これで第3回教育委員会2月臨時会を閉会する。

---

・令和8年第3回教育委員会2月臨時会を閉会する。

---

了

---

会議録署名委員

1 番委員

2 番委員